

# とても素晴らしい遺愛祭、 間違いなく「愛を遺しました」！

・・・皆さん、本当に一生懸命頑張りました・・・

合唱コンクールから22日（土）遺愛祭終了まで、遺愛生にとっては最も忙しく、最も熱く燃えた日々でした。その熱気が21日の函館の気温を今年一番の32.4℃まで高めたのかもしれませんが。生徒会・遺愛祭実行委員、そして各クラスの皆さんが協力し合って、とても素晴らしい「愛を遺す」遺愛祭になりました。

大変なこともたくさんあったと思います。22日の朝はびっくりしました。未明の雷と大雨で、遺愛のホール、小体育館、トイレ、アリーナまで冠水してしまいました。一時、開催が危ぶまれましたが、用務員の進藤さん、島田事務長先生、井上教頭先生らが朝5時台には駆けつけ、高3・高2の早朝登校した生徒さん達が手伝ってくれ、最後は次々登校する先生方、高校生、中学生総出で何とか、実施できるまでに回復しました。本当にありがとうございました。

ノーマン・V・ピールという神学者が「私たちが経験するどんな経験も、たとえそれがどんなに困難で、絶望的に見えた場合にも、私たちがその経験に立ち向かう態度に比べればそれほど重要でない」と語っています。どういう意味かということ…大変な事と向き合う時、その大変な事よりも、その起こった大変な事に対する私たちの態度（私はついていない、もうだめだとため息をばかりついているのか？それとも、ここが頑張りどころと希望をもって粘り強く取り組んでいこうとするのか？）の方がずっと大切に重要だということです。どちらを選ぶかは、実はその人の考え方の習慣によるのです。もちろん、その習慣は意識して変えることができます。

多くの皆さんは本当に素晴らしい態度（希望をもって粘り強く取り組む態度）で、合唱コンクールや遺愛祭をめぐる大変なことを一つ一つのりこえることができました。これは一つの実績であり、ぜひ自信につなげて下さい。

2017年7月24日（月）



コンテンポラリーダンス『星の仔』



ステージ



完成度の高い模擬店装飾